

教 育 目 標		夢をもち、ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きぬく児童の育成					総合評価
運 営 方 針		活力があり、安らぎを感じる学校の中で、一人一人を大切にする教職員集団が創意工夫に富んだ教育活動を実践する。					3
平成30年度の成果と課題		本年度の重点目標		具 体 的 目 標			
○自主学習が定着してきた。 ○ICT機器を積極的効果的に活用できた。 ○縦割活動で他者への気配りや配慮が身についてきた。 ●自主学習や宿題の量・質共に個人差が大きい。 ●発達段階に合った本の選定や読書量に課題がある。 ●道徳科の研修(発問、板書、評価等)が必要。		確かな学力をつける		基礎基本の徹底を図り、効果的な指導方法を工夫する。			
		自己肯定感を高める		縦割り活動を通して、思いやりの心と自己有用感を高める。			
		運動を楽しみ、体力を高める。		基本的生活習慣の見直しを図り、運動にすすんで取り組む態度を育てる。			
		ふるさと阪合部に誇りをもつ児童を育てる。		地域の教育力を積極的に活用し、学力・体力の向上を目指す一方、地域の伝統・文化を担う児童を育てる。			
	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (4段階評価)		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
確かな学力	基礎・基本の学力の定着	○家庭と連携しながら、「家庭学習(宿題＋自主学習＋読書)」を習慣化し、一層の内容の充実を図る。 ○学年間の自主学習の交流を図る。	3.1	3	学級懇談やお便りで家庭によびかけることができた。保護者の意識も高まり、子どもたちに家庭学習の習慣が定着してきた。自主学習を全校掲示することで、啓発をすることはできたが、学年間交流には課題が残る。	小学校でも「自主学習コンテスト」等を行うことで学年間交流を図っていく。	・学力向上の学校の取組を高く評価している。児童の学習意欲をさらに高める方策を考えていって欲しい。 ・自主学習は定着していると思う。 ・ICT機器の活用など進んでいるが、コツコツ、一步一步進めていく学習も大切にしたい。 ・スピーチタイムで多くの人の前で話す力がついてきている。どんどん伸ばして欲しい。 ・読書は学力向上につながると思う。 ・引き続き、楽しく学べる環境で、子どもたちの可能性を伸ばして欲しい。 ・これからの学習は、意見や表現力が求められるので、スピーチ(発表)の力が必要。
		○朝の学習で、児童の実態を踏まえて全学年を通して系統立てた指導を進める。	2.6		朝の学習を各学年で曜日ごとに計画を立てたり、教科の進度に合わせた学習をしたりするなど、内容が充実してきた。しかし、全学年を通して系統立てて行うことには課題が残った。	研究テーマに沿った学習において、全学年で系統立てた朝の学習を行っていく。	
	指導方法の工夫	○意欲的に学び、対話を通して学びを深められる授業に取り組む。そして、そのための研修を充実させる。	2.9		ペア・グループ学習を積極的に取り入れ、学び合える授業作りに取り組むことができた。しかし、学び合中で一人ひとりの考えを深めるための研修を行い、充実させることには課題が残る。	学びを深める授業作りの研修を行っていく。	
	ICT機器の活用	○授業の中でICT機器を効果的に活用することで、めあてにせまれる授業を組み立てて行く。	3.1		映像や資料を提示するなど子どもたちへの視覚的な支援を行ったり授業準備の効率化をしたりするなど、ICT機器を効果的に活用することができた。しかし、授業のめあてに迫れるような活用には課題が残る。	ICT機器の環境整備をさらに行っていく。	
	読書・スピーチタイムの充実	○子どもたちの読書意欲を喚起し、読書量を増やす取組を学校全体ですめる。	3.3		図書館司書の方に来ていただき、調べ学習や読書意欲喚起のイベントを工夫し、数多くの取組を行うことができた。子どもたちが本を手にする機会を増やすことができた。しかし、一人ひとりの読書量を増やすまでには至っていない。	読書意欲喚起の取組を継続していく。読書習慣習得のため、短時間読書に取り組む。	
○各学年で、目標を明確にしたスピーチタイムを行い、聞き手の観点を明確にし、質の高い質疑応答ができるようにする。		2.9	各学年のめあてに応じたスピーチ(話す力)の力がついてきた。質疑応答も活発になり、内容も高まってきたが、発言する子が限られてきている。	スピーチの内容を聞く時のポイントを指導し、聞き手の力を伸ばしていく。			
豊かな心	縦割り活動を基盤にした思いやりのある集団作り	○異学年交流を通して、規範意識や礼儀、他人と関わる喜びなど社会性を養う。 ○一人ひとりが集団の一員であることを自覚し、自信と誇りを身につけられる活動を行う。	3.1	3.1	異学年交流は活発。他学年と気兼ねなく関われる良さがある一方、規範意識や礼儀、社会性は身に付いていない。全体として、優しさには厳しさが含まれていない。(葛藤場面を避ける)	縦割り活動への教師の介入(視点をもって) 身近な人権課題を授業で扱う	・心豊かな人間性を高めるための異学年交流を大変評価している。上級生が下級生を見守っていて、地区の集団がうまく形成されている。 ・上級生の規範シッポの育成を期待する。 ・規範意識を向上させる指導をして欲しい。 ・自分も相手も大切にすることを学校生活の経験から学んでいって欲しい。 ・立場が固定化されている、集団の主体になれず流される、という課題に対して積極的対策を講じ、改善していって欲しい。
	互いを認め合う学級集団作り	○自分も相手も大切にすることができる。	3.2		学級集団でお互いの理解は進んでいる。表面的に安定しているが、立場が固定化されている。他者の価値観や考え方を受け入れられない。言葉が否定的・攻撃的。	カウンセリング的な関わり コーチング的な関わり	
	人権感覚を高める指導	○人権学習を通して人権について深く考える態度を身につける。	2.9		個の感性や行動力の高まりあり。集団で生かされていない。集団の中の主体になれず、流される。悩みや葛藤を避ける傾向がある(教師自身も場面を設定できていない。効率重視)	研修(人権感覚を磨く)→人権への意識の日常化 年間計画シート 自己内対話の設定	
	道徳性を育てる授業の工夫	○様々な見方・考え方を交流する授業を工夫する。 ○学びを深める発問の研究を進める。 ○板書と評価を工夫する。	3		板書の構造化、主発問の吟味の中で、児童がこれまで以上に深い価値について考えられることが増えてきた。一方で、価値として学んだことが行動力として発揮される場面は少ない。	板書の構造化 発問研究(自己内対話を促すような、視点を動かすような)	
たくましい心と体	すこやかな心と体の育成	○姿勢や歯磨きの指導と生活チェックを通して、児童の心と体の自己管理能力を高める。	2.8	3	自分の生活習慣・菌みがきについて、改めて視覚的に確認する機会となっているが、見直し改善するところまで出来ていない。保護者と課題を共有するところはできているが、それ以上に迫れていない。	生活チェックを月1回項目を絞って行う。懇談会での生活習慣について保護者への啓発を行う。	・正しい生活習慣を身につけさせることは、大変重要な取組である。保護者と連携し、あらゆる分野での取組をお願いしたい。 ・友だちとの関係を通して、心の成長があり、のびのび育って欲しい。 ・子どもたちが元気いっぱい体を動かす行事は、見応えがあり、情熱的に
		○心のレジリエンスを高めるため、児童が肯定的で未来思考の言葉づかいができるように関わる。	2.8		肯定的な表現を意識しての言葉掛けが出来るようになってきたが、まだまだそうでない言葉を使ってしまうことがある。自分の言葉遣いの癖を知る。	引き続き保健指導で行われていることを学級での指導に活かす。 ミニ研修など学びの機会を増やしていく。	
	運動習慣の形成体力の向上	○外遊びを充実させる取組の推進や系統的な体育の授業を通して、運動習慣を身につけさせ、体力の向上を図る。	3.1		遊具の設置により外遊びの充実が図れた。教師が外遊びに積極的に参加することで児童のやる気を引き出すことができていたが、児童の運動習慣形成には至っていない。体育の授業内容が外遊びにもつながるようにしていきたい。	体育で使った用具を貸し出したり、さり気なく置いたりすることで運動の幅を広げていく。	
ふるさと学習	地域の教育力の活用	○地域の支援や人材、ボランティアを開拓・活用しながら、学力・体力向上や教育環境の整備につなげる。 ○家庭の教育力の向上をめざす。	2.8	3	例年、お願いしている地域の団体やボランティアの活用は熟成期に入っている。活動が定着し、ボランティアの内容も安定している。今後は、統合後を見据えたボランティアの確保や、活動の精選などが必要となる。また、家庭教育では各家庭の協力が大きくなりつつある。	3校統合協議会で、統合後のボランティアや学校運営協議会の組織について話し合いを進める。	・お祭り、地区の運動会、鬼走りなど地域の活動に多くの小学生が積極的に参加していた。将来の地区の担い手として育てている。 ・地域の教育力の活用を期待している。 ・ボランティアでまた協力したい。 ・盆踊りの練習を学校で行ってくれてありがたかった。 ・3校統合後も地域学習や交流など、よいところは残して欲しい、
	「ふるさと阪合部」に誇りを持つ児童の育成	○地域の行事や祭りに積極的に参加し、地域の伝統・文化を担う児童を育てる。 ○教職員も積極的に地域に赴き、ふるさと学習の教材化を図る。	3		地域の雰囲気として、行事や祭りには多くの子どもたちが参加する。また、阪合部地区以外の伝統文化にも、「五條かるた」などを通して学習が広がっている。 今後は統合後も学習として残る内容を精選し、取組を進める必要がある。	地区の文化を学習すると同時に、地区以外の文化についても目を向けさせる。	
	学校からの情報発信と開かれた学校作り	○『スマイル通信』や学校ブログによる情報発信について、その効果を検証しながら進めていく。 ○学校行事や学習活動にも地域の方々を招き、双方向の関係を発展させる。	3.1		学校通信やPTA広報委員が作成する新聞・文集等を活用し、多くの情報を発信している。 統合に向け、地域・保護者・学校が一体となった委員会を設置することが出来た。今後は、活動内容を広く周知していく必要がある。	感謝式準備委員会の活動を広げると同時に、行われるイベントについても周知しつつ、協力してもらえる人材を増やしていく。	